

外国人ドライバー支援機構： 埼玉で特定技能ドライバー就労予定を発表

25.02.05

外国人ドライバー支援機構(福岡県大野城市)は5日、2024年12月に国内初の特定技能1号評価試験に合格した中国籍の周鴻澤氏が、ことし春から埼玉県での運送事業者でトラックドライバーとして就労予定であると発表した。



自動車運送業分野の評価試験に合格したシュウ コウタクさん

周氏、19年に日本語学校へ入学し、21年から福岡県内の大学で経営を学び、25年春に卒業予定である。同氏は外国人ドライバー支援機構が実施した就職説明会を通じて進路を決定し、現在は準中型免許取得に向けて教習を受けている。合格した特定技能評価試験は、運送業に必要な知識を認定するもので、同試験の成功は外国人労働力を活用する運送業界にとって重要な一歩といえる。

埼玉大学：さいたま市日本語スピーチ大会で留学生が入賞

25.02.17

2月8日(土)、浦和コミュニティセンター 多目的ホールにて「第23回 さいたま市外国人による日本語スピーチ大会 ～さいたまに来て、見て、感じて～」が開催され、本学大学院理工学研究科博士後期課程 環境社会基盤コース所属のAsiya Nurhasanah Habirun(アシヤ ヌルハサナ ハビルン)さん(インドネシア)が2位に当たる優秀賞受賞を果たしました。



さいたま観光国際協会主催により2002年度に始まった本大会は、毎年、さいたま市に在住・勤務・在学のいずれかで日本語を母国語としない中学生以上の方々が出場対象で、参加者がさいたまでの日々の生活の中で感じたことを日本語でスピーチを行い、それぞれが積み上げてきた日本語力を発表する場となっています。

23回目となる今回は、「さいたまの魅力み一つけた！」をテーマに、参加者10名の皆さんそれぞれが感じるさいたまの魅力を伝え、今まで身につけられてきた日本語の成果を発揮されていました。

スカイインターナショナル： 登録支援機関の新サービスを開始（さいたま市）

人材紹介料が1年間ゼロ円！人手不足の企業が即戦力を確保できる新サービス。ベトナム出身のスタッフと日本人担当者が連携して入国後の生活支援を行うことで持続可能な外国人雇用の実現を目指します

ベトナム籍を中心とした人材紹介・登録支援機関のスカイインターナショナル株式会社（埼玉県さいたま市浦和区）は、深刻な人手不足の中小企業が採用コストの負担なく即戦力を確保できる人材紹介料0円の新サービスを2025年2月17日（月）より開始します。

■ 採用コストの負担なく外国人材の雇用を試せる仕組みを提供

25.02.17



羽生モータースクール等： ベトナム大手教習所と戦略協定を締結

有限会社羽生モータースクール(本社:埼玉県羽生市、代表:五十幡和彦)と株式会社広沢自動車学校(本社:徳島県徳島市、代表祖川嗣朗)は2025年2月28日、昨年末に解禁された「特定技能(自動車運送業)」制度(いわゆる外国人ドライバー制度)の本格化を前に、課題となっている外国人ドライバーの安全性を高めるべく、ベトナム全土で教習所事業を展開する大手グループ「VAN THANH GROUP(ヴァンタイングループ)」と共同で、日本でトラック・バス・タクシーの運転手を目指すベトナム人向けに、来日前に同国の教習所などで日本式の学科と実技の教育を行うプログラムの開発・提供をするための戦略基本協定(MOU)を締結しました

25.03.03



アサヒロジ：特定技能ドライバーの 入社식을埼玉県滑川町で実施

25.04.15

アサヒロジスティクスは4月15日、国内初となる特定技能外国人ドライバー周 鴻澤(シュウ コウタク)さん(24歳)が入社するにあたり、自社が運営するドライバー専用研修施設「滑川福田センター」(埼玉県比企郡滑川町)で、入社式を開催した。

<運転席に座る周さん>



周さんは、2024年12月に国内初の「特定技能1号評価試験」に合格した中国籍の大学生。大学卒業後、トラックドライバーとして採用された。今後、外食向けの配送などを担うアサヒロジスティクス東松山石橋営業所(埼玉県東松山市)のサービスドライバーとして配送業務を担う。

朝日新聞：熊谷市国際交流協会 在住外国人向け日本文化体験会を開催

25.06.22

埼玉県熊谷市国際交流協会は21日、日本で暮らす外国人に日本文化に触れてもらう集いを市指定の名勝「星溪園」で開いた。

市内在住者を中心に、14の国・地域の出身の約50人が参加。近隣国の人が目立ったが、スリランカ、バングラデシュ、英国の出身者もいた。協会スタッフらに手伝ってもらい、浴衣姿になって茶道の作法を学び、琴を弾いた。伝統的な日本庭園を望むあずま屋ではお手玉や書道も体験し、七夕が近いことから七夕飾りづくりにも挑戦した。



茶室には笑顔が満ちた=2025年6月21日、埼玉県熊谷市、猪瀬明博撮影 

市内のコンピューター専門学校生でチリ人のディエゴ・ピサロさん(22)は「周りにチリ人がおらず寂しくなることもあるが、同じ境遇の多くの仲間と交流ができて楽しかった」と話した。

出典：<https://www.asahi.com/articles/AST6P3Q60T6PUTNB00CM.html>